聖書研究ver.干干

「神さまはなぜ試練を課すのか」

2012/12/11

文責：干干

書記：＠

●関心

入寮前：詳しい知識をもっているわけではないが、ジェンダー・セクシュアリティ論に強く興味を持っていたので、日本に現代の正しい男性・女性像を持ちこんだものとしてキリスト教には強い忌避感を持つと共に勉強に役立つのではと知識を学ぶことには前向きな気持ち。

1,2年生：入寮前と大きく変わりは無いが、聖書研究の「研究」という語感から入寮前に受けていた学術的な印象と異なり、実際は聖書をどう読むのか・それをどう自身の生活での考え方に取り入れられるのかという点に重点を置いた講読に感じられ、あまり聖書研究には前向きな気持ちではない。

3年生：聖書（特に福音書）の内容がすんなりとれるようになるとともに、一応の理解が進んだことで実際に信じるか否かは別にして「信じられればいいな」と思うようになったことで、内容に踏み込んで皆の意見を聞くことが楽しみになる。しかし東北大震災など現代の人びとに生じるさまざまな問題や、聖書の一部の記述を見るにつけて神さまの存在を信じることはできなかった。

4年生：３年次と大きく変わらない。

●問い

Ｑ．なぜ神は罪もない人間に乗り越えられない試練を課すのか。（Ex.東北大震災での被災、五体満足で生まれてこられない人びとetc）

～考えられる答え～

・人間は誰もが原罪を負っている

→生まれて間もない幼児であっても先天的に障害を持って生まれてきたり、地震・津波で命を落としたりした。そういった人たちも罪深い？何のために生まれてきたのか？その子たちは神さまに愛されてはいなかったのか？

水：そのような人をみて、かわいそうとか思うのは他人の考えで真理ではない。本人がどう思うかが大切では？（イザヤ55章9）わからないことから生じる不条理に対して。悲しいものは神様を信じていても悲しい。答えを出すことができないのは、作ったもの（神）と作られたもの（人間）の関係に生じる優位性から。（詩編28）幸せというものは他人が決められるものではない。

・キリスト教に接する機会がありながらその教えに触れようとしない点でも罪深い

→クリスチャンであるか否かは関係なく問題に巻き込まれる

・悪いことが生じた場合ばかり「なぜ神様は・・」と神様を意識し出す

・神様にもどうにもならないことがある？

→神さまはこの世のすべてのことに関与できる力を持っているのでは？

・そもそも神さまは人間一人ひとりの世話をやききれるほど暇じゃない

→神さまは全ての人間を我が子のように思っているのではなかったのか

・どんな苦しい状況の中でも神さまによって希望が与えられるはず！神さまは必ず乗り越えられる試練を与えてくれるはず！

→時間を経たり、努力でもどうにもならなかったりする苦境は必ずあるはず。現実は苦しい状況と妥協したり、「乗り越えた」という言葉を使いつつも実際は諦めているに過ぎなかったりすることも多い

・神さまの意図は人間には計り知れない

→結局誰にもわからないということ？そんな考えでなぜ与えられる試練を甘受できるのか？

Φ：人は神に似せて作られた→神にもいろいろな性格や性質があるのでは？

また、愛の形としての試練。甘やかすだけが愛じゃない。あるいは、神の気まぐれ。

創造主としての神の存在と「人を超えるもの」としての神の存在、後者によりこれらのことは起こる。

♀：自分以外の人間はもしかしたら人じゃないのかも（NPC）。そう考えると説明できる（大震災の情報はあるが、被災した「人」について）

塁：結局乗り越えられる試練しか与えていないのか？辛いことも時間とかにより人間的に成長できる。もし全知全能なら、もう少し平等な世界（五体満足とか、才能面とか）を作れたのでは？

F：（第一コリント10章）神は乗り越えられ得る試練しか与えないとあるので、キリスト教的には、あれは耐えられる試練だったということ・・・だが、実際はどうなのかは不明。信じていれば越えられるのか？

♪：本当に神様が試練を課した結果、災害や障害がおこるとすれば、神はみなを分け隔てなく愛しているので、被災する人は特に理由があるわけではなくて、無作為。みんながみんな平等ならば、それはそれで歪みが生まれるので（食えない人も出てくる）・・・ので、減らしたり、知らせないといけないので、涙を呑んで課す。

う：神と人は違う。聖書を信じてれば試練について、慰められることもある。子どもと思わなければ試練も与えない。理由については、神に聞くしかない、その答えを待つしかない。死んでしまった人については、気の毒だが、それによって神を呪ったりするのではなく、これを通して、何を神は教えて下さるのか、待つしかない。なんでなんで？と聞くのではなく、この中でどう生きていくのかを問う。神様は我々をいじめたりしようとは決して思っていない。

♀：もしかしたら亡くなった人は、今死ななかったらよりむごかったかも・・障害があるのも、例えば乙武さんとかはそれによって成功してる。

め：F兄に近い。信じていれば乗り越えられる。また、死がすべての終わりではないので、あの世でまた暮らせる。

ｈ：どんな苦しい状況でも希望が与えられる。人間にはどうしても乗り越えられない試練が与えられるという前提があり、でもそこにも神様がいれば、そこに意味を見いだせる。

＠：そんなこと人間にはわからない、あるいは、他に神様がいる、あるいは、神様なんていなくて運が悪かっただけ。

水：クリスチャンなのでそういう前提があるとして。当事者でないので、そんなにも辛い体験はコメントしにくい。

宮：報い、試練の意味がわかるのは、死んだあとかも、あるいは自分じゃないかもしれない。

他人の気持ちを推量するのは難しい。